

調査の概要

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

道民の人口減少などに関する意識調査を実施し、道民の道政に対する意識等の的確な把握に努めるとともに、調査結果を政策形成に反映させる。

(2) 調査項目

- I 北海道の人口減少について
- II 道内地域とのつながりや愛着について
- III 居住地について
- IV その他道政運営に関することについて

(3) 調査の方法

- 1) 調査地域 北海道全域
- 2) 調査対象 道内に居住する満 18 歳以上の個人
- 3) 標本数 1,500 サンプル
- 4) 地点数 150 地点
- 5) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- 6) 調査方法 郵送配布、郵送回収及び Web (スマホ) による回答
- 7) 調査期間 令和 5 年 9 月

(4) 調査実施機関

昇寿チャート株式会社

(5) 調査回収状況

標本数	1,500
有効回答数 (率)	661 (44.1%)

2. 調査回答者の特性

区分	総数	比率
【総数】	661	100.0%
【性別】		
男性	289	43.7%
女性	354	53.6%
その他・無回答	0	0.0%
未回答	18	2.7%
【年代別】		
18～29歳	54	8.2%
30～39歳	113	17.1%
40～49歳	179	27.1%
50～59歳	153	23.1%
60～69歳	111	16.8%
70歳以上	46	7.0%
未回答	5	0.8%
【既婚・未婚別】		
既婚	461	69.7%
未婚	195	29.5%
未回答	5	0.8%
【世帯構成別】		
1人暮らし	52	7.9%
子育て世帯	100	15.1%
三世帯	42	6.4%
その他	461	69.7%
未回答	6	0.9%
【職種別】		
会社員（正社員）	182	27.5%
会社経営（経営者・役員）	19	2.9%
公務員・教職員	41	6.2%
団体職員	16	2.4%
派遣社員・契約社員	34	5.1%
自営業・自由業	32	4.8%
農林漁業	6	0.9%
専門職（弁護士・税理士・医療関係など）	39	5.9%
パート・アルバイト	139	21.0%
専業主婦・主夫	61	9.2%
学生	11	1.7%

区分	総数	比率
無職	70	10.6%
その他	4	0.6%
未回答	7	1.1%
【地域別】		
道央広域連携地域	395	59.8%
道南連携地域	58	8.8%
道北連携地域	83	12.6%
オホーツク連携地域	32	4.8%
十勝連携地域	46	7.0%
釧路・根室連携地域	28	4.2%
未回答	19	2.9%
【出身地別】		
札幌市	135	20.4%
札幌市以外の道内市町村	463	70.0%
道外	54	8.2%
海外	0	0%
未回答	9	1.4%
【人口規模別】		
札幌市	239	36.2%
人口10万人以上の市	173	26.2%
人口1万人以上10万人未満の市町村	184	27.8%
人口1万人未満の市町村	46	7.0%
未回答	19	2.9%
【人口減少度】		
減少率2.0%未満	284	43.0%
減少率2.0%以上10.0%未満	203	30.7%
減少率10.0%以上	155	23.4%
未回答	19	2.9%
【居住年数別】		
1年未満	13	2.0%
1～5年未満	38	5.7%
5～10年未満	35	5.3%
10～20年未満	111	16.8%
20年以上	457	69.1%
未回答	7	1.1%

（注）個々の比率（百分率）は、小数第2位を四捨五入した。このため、各区分における比率の合計が100.0%にならない場合がある。

3. サンプリング

母集団	道内に居住する満 18 歳以上の個人
標本数	1,500 サンプル
地点数	150 地点
抽出方法	層化二段無作為抽出法

(1) 層化

北海道の市町村を次の 6 圏域に分類した。6 圏域で市区町村を人口規模別に「札幌市」、「人口 10 万人以上の市」、「人口 10 万人未満の市」、「町村部」に分類した。人口規模は令和 5 年 5 月 31 日現在の住民基本台帳人口による。

- 【道 央】 札幌市、★江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、岩見沢市、美唄市、滝川市、砂川市、深川市、長沼町、栗山町、★小樽市、倶知安町、余市町、★苫小牧市、室蘭市、登別市、伊達市、白老町、日高町、新ひだか町
- 【道 南】 ★函館市、北斗市、七飯町、森町、長万部町、せたな町
- 【道 北】 ★旭川市、名寄市、富良野市、東神楽町、東川町、上富良野町、留萌市、稚内市、羽幌町、枝幸町
- 【オホーツク】 ★北見市、網走市、紋別市、美幌町、遠軽町、大空町
- 【十 勝】 ★帯広市、音更町、芽室町、幕別町、本別町、清水町
- 【釧路・根室】 ★釧路市、釧路町、根室市、中標津町
- 注) ★印は、札幌市を除く人口10万人以上の市

(2) 標本分配

調査対象は北海道内に居住する満 18 歳以上の個人であるため、令和 5 年 6 月 1 日現在の選挙人名簿登録者数を推定母集団とし、その大きさにより 150 の地点数を比例分配した。なお、各母集団は、住民基本台帳を抽出原簿として採用した。

(3) 抽出

① 第1次抽出単位となる調査地点（各市町村、条町丁字名別）の抽出

各層に配分した調査の地点数分、調査対象地区を抽出した。抽出に際しては、「住民基本台帳人口」を基に各地点の住民基本台帳人口の累積度数を算出して、各層の総人口に対する累積占有率を算出し、調査地点数分乱数を発生させて、該当する150地区を抽出した。

② 第2次抽出単位となる調査対象者の抽出

対象者の抽出は、地点ごとに抽出間隔を算出し、住民基本台帳から等間隔に10人抽出し、調査標本1,500を抽出した。なお、抽出に当たっては、満18歳以上の個人であることに留意した。

$$\frac{\text{調査地点推定人口総数}}{10} = \text{抽出間隔}$$

(4) 抽出結果

圏域、人口規模ごとの標本数、調査地点数は次の通りである。

地域	人口規模	住民基本台帳 人口数 (R5. 6. 30現在)	選挙人登録 名簿人口数 (R5. 6. 1現在)	標本数	地点数
道央広域 連携地域	札幌市	1,959,838	1,687,090	570	57
	人口10万人以上	393,697	341,263	110	11
	人口10万人未満	642,123	558,836	190	19
	町村部	275,995	239,794	70	7
道南 連携地域	人口10万人以上	241,936	214,417	70	7
	人口10万人未満	43,911	37,176	10	1
	町村部	114,267	101,045	40	4
道北 連携地域	人口10万人以上	321,972	281,059	90	9
	人口10万人未満	112,783	99,267	40	4
	町村部	133,007	114,747	50	5
オホーツク 連携地域	人口10万人以上	112,196	98,059	30	3
	人口10万人未満	53,569	46,729	20	2
	町村部	97,080	84,318	30	3
十勝 連携地域	人口10万人以上	163,131	140,759	50	5
	町村部	163,529	139,854	50	5
釧路・根室 連携地域	人口10万人以上	158,807	139,860	50	5
	人口10万人未満	23,111	20,245	10	1
	町村部	102,072	87,574	20	2
合計		5,168,999	5,113,024	1,500	150

4. 調査地点一覧

抽出市町村、抽出地点は、次の通りである。

地域	人口規模	抽出市町村	抽出地点
道 央 広 域 連 携 地 域	札幌市	中央区	北3条西29丁目
			旭ヶ丘1丁目
			円山西町5丁目
			南16条西13丁目
			南29条西10丁目
			南3条西21丁目
			宮の森2条13丁目
		北区	あいの里4条3丁目
			北25条西13丁目
			北34条西10丁目
			篠路9条4丁目
			新川西3条5丁目
			新琴似1条8丁目
			太平9条6丁目
			屯田4条3丁目
		東区	北11条東4丁目
			北27条東10丁目
			北43条東2丁目
			北9条東10丁目
			中沼6条2丁目
			東苗穂13条3丁目
			伏古12条3丁目
			本町1条2丁目
		白石区	川下5条3丁目
			菊水上町2条1丁目
			菊水元町8条2丁目
			北郷4条12丁目
			東札幌2条3丁目
			平和通7丁目北
		豊平区	月寒西1条8丁目
			月寒東4条17丁目
			豊平8条9丁目
			西岡5条15丁目
			平岸3条17丁目
			福住3条8丁目
			美園10条4丁目
南区	川沿12条4丁目		
	澄川5条12丁目		
	常磐1条2丁目		
	藤野1条8丁目		

地域	人口規模	抽出市町村	抽出地点
道央広域連携地域	札幌市	西区	西野11条9丁目
			八軒5条西2丁目
			発寒4条5丁目
			平和2条10丁目
			宮の沢1条5丁目
			山の手7条7丁目
		厚別区	厚別北2条2丁目
			厚別西2条1丁目
			厚別東1条5丁目
			もみじ台北2丁目
		手稲区	曙1条1丁目
			稲穂2条6丁目
			手稲本町5条2丁目
			前田8条8丁目
		清田区	美しが丘2条8丁目
			北野3条5丁目
	平岡9条3丁目		
	人口10万人以上	苫小牧市	明野新町2丁目
			ウトナイ北7丁目
			沼ノ端中央1丁目
			ときわ町2丁目
			美園町3丁目
		江別市	上江別東町
			文京台南町
			見晴台
		小樽市	オタモイ1丁目
			花園4丁目
			望洋台2丁目
		人口10万人未満	千歳市
	清流3丁目		
	みどり台南2丁目		
	室蘭市		絵鞆町2丁目
東町5丁目			
岩見沢市	南町7条4丁目		
	栄町1丁目		
恵庭市	黄金南4丁目		
	文京町1丁目		
北広島市	大曲南ヶ丘3丁目		
	東共栄2丁目		
石狩市	花川北1条2丁目		
	緑苑台東2条2丁目		

地域	人口規模	抽出市町村	抽出地点
道央広域連携地域	人口10万人未満	登別市	富士町5丁目
		滝川市	黄金町東3丁目
		伊達市	山下町
		美唄市	西3条北6丁目
		深川市	北光町2丁目
		砂川市	空知太東4条4丁目
	町村部	長沼町	しらかば1丁目
		栗山町	朝日4丁目
		倶知安町	北4条東4丁目
		余市町	港町
		白老町	末広町3丁目
		日高町	門別本町
		新ひだか町	静内中野町2丁目
道南連携地域	人口10万人以上	函館市	赤川1丁目
			上野町
			桔梗5丁目
			白鳥町
			陣川町
			日吉町2丁目
	町村部	北斗市	久根別4丁目
		七飯町	大中山2丁目
		森町	森川町
		長万部町	長万部
		せたな町	瀬棚区本町
道北連携地域	人口10万人以上	旭川市	神楽2条7丁目
			末広2条10丁目
			忠和3条6丁目
			東光1条10丁目
			豊岡6条2丁目
			西神楽北2条1丁目
			東旭川北1条7丁目
			緑が丘2条1丁目
	町村部	宮前1条4丁目	
		名寄市	西5条南12丁目
		留萌市	潮静1丁目
		稚内市	萩見5丁目
		富良野市	東町
	町村部	東神楽町	北1条西2丁目
		東川町	北町3丁目
		上富良野町	本町5丁目
		羽幌町	南町
枝幸町		三笠町	

地域	人口規模	抽出市町村	抽出地点
オホーツク 連携地域	人口10万人以上	北見市	清見町
			とん田西町
			西三輪2丁目
	人口10万人未満	網走市	鱒浦3丁目
		紋別市	落石町3丁目
	町村部	美幌町	三橋町1丁目
		遠軽町	東町3丁目
大空町		女満別西5条3丁目	
十勝 連携地域	人口10万人以上	帯広市	自由が丘5丁目
			清流東2丁目
			西17条北2丁目
			西9条南39丁目
			東12条南4丁目
	町村部	音更町	宝来東町南2丁目
		清水町	南7条6丁目
		芽室町	東1条南7丁目
		幕別町	札内北栄町
釧路・根室 連携地域	人口10万人以上	釧路市	南2丁目
			芦野3丁目
			貝塚2丁目
			駒場町
			桜ヶ岡6丁目
	人口10万人未満	根室市	星が浦北4丁目
		駒場町2丁目	
町村部	釧路町	光和6丁目	
	中標津町	西13条北	

5. この報告書の見方

- (1) 回答率（各回答の百分率）は小数第 2 位を四捨五入した。このため、個々の比率の合計が 100.0% にならない場合がある。
- (2) 設問説明文にて複数の回答を求めているものには、2 つ以上の回答を求めているものと、回答数に制限を設けているものがあり、いずれもその百分率の合計は 100.0%を超える場合がある。
- (3) この調査は、標本調査であるため、全数調査の結果（真の値）から一定の範囲内で離れていることがある。これを標本誤差といい、層化二段無作為抽出の場合、信頼度 95%のとき次の式で算出される。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

N=母集団数
 （令和 5 年 5 月 31 日現在住民基本台帳人口数=5,168,999）
 n=有効回答数
 P=回答比率

上記の式により、有効回答数（n）、及び回答比率（P）ごとに信頼度 95%の標本誤差を計算すると、次の通りとなる。

回答比率 (P) 有効回答数 (n)	10%又は 90%程度	20%又は80% 程度	30%又は70% 程度	40%又は60% 程度	50%程度
661	±3.30%	±4.40%	±5.04%	±5.39%	±5.50%
500	±3.79%	±5.06%	±5.80%	±6.20%	±6.32%
300	±4.90%	±6.53%	±7.48%	±8.00%	±8.16%
100	±8.49%	±11.31%	±12.96%	±13.86%	±14.14%

注) この表の見方

N は n より非常に大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。例えば、「ある設問の回答者数（n）が 661 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差は 95%の信頼度で、±5.39%以内（54.61～65.39%）である」となる。

- (4) 圏域別（道央、道南、道北、オホーツク、十勝、釧路・根室）の該当市町村については、別途「4. 調査地点一覧」（P.7～P.10）に記載している。
- (5) 設問ごとの解説は、回答数の多かった上位 3 項目を【全体】に記載し、【性別】【年代別】【既婚・未婚別】【同居者別】【職種別】【地域別（圏域単位）】【出身地別】【人口規模別】【人口減少度別】【居住年数別】の種別ごとに回答の傾向を記載した。

なお、下記の種別においては、回答者数が少なく標本誤差が大きいことから、それらを除外した記述とした。

【性別】：その他・無回答

【職種別】：会社経営（経営者・役員）、団体職員、自営業・自由業、農林漁業、学生、その他

【出身地別】：海外 【居住年数別】：1 年未満

- (6) 人口規模別（「札幌市」、「人口10万人以上の市」、「人口1万人以上10万人未満の市町村」、「1万人未満の市町村」）の該当市町村は下記のとおりである。

地域	人口規模	該当市町村
道央広域連携地域	札幌市	札幌市
	人口10万人以上の市	苫小牧市、江別市、小樽市
	人口1万人以上10万人未満の市町村	千歳市、室蘭市、岩見沢市、恵庭市、北広島市、石狩市、登別市、滝川市、伊達市、美唄市、深川市、砂川市、新ひだか町、日高町、余市町、倶知安町、栗山町、長沼町、白老町、
道南連携地域	人口10万人以上の市	函館市
	人口1万人以上10万人未満の市町村	北斗市、七飯町、森町
	1万人未満の市町村	せたな町、長万部町
道北連携地域	人口10万人以上の市	旭川市
	人口1万人以上10万人未満の市町村	稚内市、名寄市、留萌市、富良野市
	1万人未満の市町村	東神楽町、東川町、上富良野町、羽幌町、枝幸町
オホーツク連携地域	人口10万人以上の市	北見市
	人口1万人以上10万人未満の市町村	網走市、紋別市、遠軽町、美幌町
	1万人未満の市町村	大空町
十勝連携地域	人口10万人以上の市	帯広市
	人口1万人以上10万人未満の市町村	音更町、幕別町、芽室町
	1万人未満の市町村	清水町、本別町
釧路・根室連携地域	人口10万人以上の市	釧路市
	人口1万人以上10万人未満の市町村	根室市、中標津町、釧路町

(住民基本台帳人口数 R5.5.31 現在)

- (7) 人口減少度は、「住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数」（総務省）の H27.1.1 現在と R5.1.1現在の市町村の人口を比較し減少率が「2.0%未満」、「2.0%以上10.0%未満」、「10.0%以上」で分類した。